

第28回 日本福祉のまちづくり学会全国大会 in 小松

市民公開フォーラム2025

能登半島 地震と 福祉の まちづくり

能登半島地震と
福祉のまちづくりをテーマに、
持続可能な社会構築のために
必要な取り組みを提案します。

参加無料

先着
50名

開催日時

2025年

9月27日 土 SAT

15:00~17:00

会場

公立小松大学
中央キャンパス

石川県小松市土居原町10番地10

申し込み
フォームは
こちら



<https://forms.office.com/r/mTcBXmTHm6>

お問合せ

公立大学法人
公立小松大学 総務課
TEL:0761-23-6600
FAX:0761-48-3248
Email:soumu@komatsu-u.ac.jp

■タイムスケジュール 総合司会 公立小松大学 教授 中子 富貴子

15:00 開会あいさつ 公立小松大学 学長 山本 博

15:05 講演①
R6年能登半島地震被害の概要と道路・公共交通の現状
公立小松大学 教授 高山 純一

15:20 講演②
震災と医療支援の医史学
公立小松大学 学長 山本 博

15:35 講演③
要配慮者の避難生活の実態と今後の備え
東北福祉大学総合マネジメント学部 教授 石塚 裕子

15:50 講演④
日本の地方地域における自動運転の現状と課題
一般財団法人日本自動車研究所 所長/東京大学 名誉教授 鎌田 実

16:05 全体パネルディスカッション ■コーディネート:高山 純一
■パネリスト: 山本 博、石塚 裕子、鎌田 実
谷口 広之(社会福祉法人輪島市福祉会あての木園 施設長)
吉村久美子(NPO法人プープ 理事長)

16:55 閉会あいさつ 公立小松大学 副学長(研究担当)
木村 繁男



講演 1

公立小松大学 教授
高山 純一



R6年能登半島地震被害の概要と道路・公共交通の現状



講演要旨

令和6年1月1日に発生した能登半島地震は、最大震度7の非常に大きな地震であった。特に奥能登の2市・2町は震度6強の揺れに見舞われており、地震直後には大きな津波が発生している。ここでは、最初に能登半島地震の被害の実態を報告する。具体的には、避難状況と道路・公共交通の被災状況と復旧状況を報告し、どのような対策を行ってきたのか、明らかにしたい。また、今後の復旧に向けた主要道路の整備方針と公共交通計画を報告する。



講師紹介

1954年石川県金沢市生まれ、1977年金沢大学工学部土木工学科卒業。
1979年金沢大学大学院工学研究科修士課程修了、1979年金沢大学 助手、1988年工学博士(京都大学)、1990年金沢大学助教授、1998年金沢大学教授、2020年金沢大学定年退職、2022年公立小松大学教授。
◎2011年(JCOMMプロジェクト賞)、2012年(33回金沢市文化活動賞受賞)、2019年(令和元年国土交通大臣表彰)

講演 2

公立小松大学 学長
山本 博



震災と医療支援の医史学



講演要旨

わたしたちは、
災害と被災者支援から
何を学んだか。

1. 関東大震災: Unaided aid — 災害時チーム医療とインフラ整備の先駆
2. 福井空襲と大地震: 福井県民の立ち直り — 記憶遺産「フェニックス通り」
3. 阪神・淡路大震災: 「災害関連死」のコンセプトの誕生と反省
4. 東日本大震災: 「来るはずの患者が来ない」 — 戦慄の3.11
5. 能登半島地震と大雨: さらなる学び — 地震後の教訓が大雨時人々を救った
6. エピローグ: ミャンマーから — サイクロンNargisと2025大地震における帰国留学生の活躍

講師紹介

1949年 石川県小松市生まれ
1975年 金沢大学医学部卒業。金沢大学附属病院、国立鯖江病院、敦賀市立病院、珠洲市総合病院などで医師
1978年 富山医科薬科大学医学部 助手(生化学第一教室)
1982年 医学博士
1985年 東北大学医学部 助教授(医化学第一教室)
1990年 金沢大学医学部 教授(生化学第二教室)
2007年 日本血管生物医学会 会長
2013年 北陸医史学会 会長
2014年 金沢大学 理事・副学長
2018年 公立小松大学 学長
◎受賞: 日本糖尿病学会ハーグドーン賞など

講演 3

東北福祉大学
総合マネジメント学部 教授
石塚 裕子



要配慮者の避難生活の実態と今後の備え



講演要旨

身体および知的・精神・発達障害のある人にとって災害発生後の避難および避難生活には、様々な障害が生じることがこれまでの災害においても報告されている。今回の能登半島地震とこれまでの東日本大震災や熊本地震等との比較を通して課題を再確認するとともに、災害時要配慮者の避難および避難生活の改善に向けて、今後どのような備えが必要なのかを考察する。

講師紹介

大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了、博士(工学)、技術士(都市および地方計画)、専門はまちづくり、バリアフリー計画学、一般社団法人日本福祉のまちづくり学会副会長。
主な著書は『誰もが(助かる)社会—まちづくりに織り込む防災・減災』(共編著・新曜社)、『総合検証 東日本大震災の復興』(分担執筆・岩波書店)、『やっかいな問題はみんなで解く』(分担執筆・世界思想社)等。

講演 4

一般財団法人
日本自動車研究所 所長/
東京大学 名誉教授
鎌田 実



日本の地方地域における自動運転の現状と課題



講演要旨

現在、全国各地において自動車自動運転の実証実験が実施されている。今後はそれを本格的に社会実装していく必要がある。人口減少が進む地方都市や半島地域、過疎地域において自動運転自動車が果たす役割やその可能性についてお話する。

講師紹介

1987年、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。1990年 東京大学工学部 講師。同大学 助教授を経て2002年 東京大学大学院工学系研究科 教授。2009年 同大学高齢社会総合研究機構 機構長、2013年 同大学大学院新領域創成科学研究科 教授を経て2020年 現職。専門は、車両工学、福祉工学、ジェロントロジー。国土省交通政策審議会委員、経産省自動車走行ビジネス検討会座長などを歴任。
◎2015年 交通文化賞受賞